

一般社団法人

香川県作業療法士会ニュース

発行：(一社)香川県作業療法士会広報部
事務局：〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜五番丁 62-1
四国医療専門学校 作業療法学科内
(一社)香川県作業療法士会事務局
E-mail:kagawa-ot@star.ocn.ne.jp

作業療法士としての矜持とキャリア

医療法人社団 研宣会 広瀬病院 田村 篤史

2021年度、新型コロナの真っ只中、私は、経験年数12年程度の若輩者にして、香川県作業療法士会の理事を拝命致しました。松本会長、植野前会長からのお声掛けも頂戴したため、任を賜りましたが、非常に重責であると同時に、現時点で何も結果が残せていないように思います。

その反面、これまでの臨床経験の中で、私が意識して取り組んだ、作業療法士としての矜持（誇り）とキャリアプランニングの為の行動、例えば、研修会・学会への参加、学会発表、ライフワークとしてのより専門的なハンドセラピーについての自己研鑽、認定作業療法士の取得、地域事業への参加などの全てが、実を結んだ結果のように思えて、非常に嬉しくも感じております。

大層な事を凶々しくも述べておりますが、私自身、就職したての頃から、まじめに色々取り組んできたわけでもございません。1・2年目は日々の業務とそれに対する勉強に追われ、人間関係に揉まれ、こなすだけの日々を送っておりました。3年目にしてようやく「仕事をこのままで続けていて大丈夫か、若い優秀な後輩がどんどん世に出ているなか、作業療法士として大丈夫か」と危機感を覚え、急いで行動に出始めたものです。

このように生きてきた私が、今、香川県作業療法士会の役割を与えていただき思うのは、作業療法士を生業として続ける上で、世の中の情勢を見極め、医療職の置かれる現状を客観視し、危機感を抱くことは大切なのでは、という事です。

作業療法士として突き進むならば、新卒であろうと、中堅であろうと、これからさらに押し寄せる時代の波に、抗いながら進んでいくほかないと感じております。反面、危機感を持ち、何か行動するのに、適切な時期や必要な経験年数もないと思っております。

作業療法士という素晴らしい職業を、素晴らしいまま続けていけるよう、職能団体も努力していく。そのような思いで、今後も理事として、未熟ながらも努めてまいりたいと思います。



先輩の声

No.52 医療法人社団和風会橋本病院 所属：回復期リハビリテーション病棟

土居 亮平

(11年目)

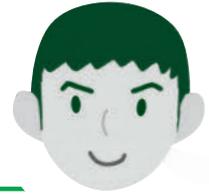


私は、平成24年に作業療法士（以下OT）の資格を習得し、11年の月日が経とうとしています。入職当初は仕事のやりがいを感じつつもOTとしての治療や患者様のADLでの悩み事も多々ありました。そんな中、心がけていたことは、患者様の声に耳を傾けること、他職種とも連携、先輩への相談です。特に担当させて頂いた患者様にはリハビリ場面だけではなく病棟生活場面でも気かけコミュニケーションを多く取るようにしていました。患者様は徐々に心を開き本音を語って頂く事ができアプローチを導き出せる事もありました。そんな私も現在ではチームリーダーの補佐的な役割や新人教育、学生のバイザーなど指導する立場となりました。患者様と同様に同職種、他職種、後輩など連携も含めコミュニケーションは大事にしています。一人で解決できないこともチームで課題を共有し一つずつ解決していく事が大切であると思います。

専門職として論文を閲覧し知識を蓄える、講習や勉強会参加にて技術を磨く事も大切にしつつ、同職種・他職種連携や患者様へのコミュニケーションなど初心を忘れずOTをやっていきたいと思います。



No.53 高松市立みんなの病院

飛鷹 和樹
(7年目)

私は高松市立みんなの病院で働き始め、7年目になります。自身が憧れて就職した急性期総合病院ですが、日々目まぐるしく変化する患者様の状態や展開の早さに多少の対応力は身につけたものの職場の方々に助けられていると実感する毎日です。

今回、この文章を書かせて頂くにあたり入社当時の自分を振り返ってみると、疾患という部分に意識しすぎて患者様の心情や思い自体と向き合う事が出来ず、関りとして失敗してしまったという数多くの経験が思い出されます。実際、経験を積んだ今でもそれは難しい事ですし、社会経験の乏しい新人では急性期の展開の速さの中で意識の届かない部分であったとも理解しています。

そのうえで患者様に向き合う事の重要性を認識できたのは、拒否傾向のある患者様に対して難渋していた際に、見学に来られたご家族の前では笑顔でリハビリに臨む姿を見てからでした。自身がプログラムの提供ばかりに意識を割かれて本人の気持ちに寄り添えていなかったのではないかと認識出来たことが転機となり、その後は患者様と改めて話し合いを行い希望を聴取、目標を定めたことで問題の解決に繋がりました。

ただ、その後も良い関わりが出来たな、もう少し他の方法がなかったのか？と試行錯誤は尽きず7年目を迎えていますので、これから先も色々と迷いながらであっても、患者様の心に寄り添えるような作業療法士になれるよう努力を続けていきたいと思っています。



(一社)香川県作業療法士会運営に関する周知会

今年度も協会の重点項目、当士会の事業や方向性についてご理解いただくため、周知会の場を設けさせていただき、各施設の代表者の方に参加していただきました。会長の松本嘉次郎からの説明後、グループディスカッションが実施されました。今回のテーマは昨年に引き続き「香川県作業療法士会として、各施設として入会者を増やしていく方法」でしたが、より具体的なお意見を頂くため「士会として行っていくとよいと思うこと」「施設側、個人が行っていくとよいと思うこと」についてご討議いただきました。参加者の皆様からグループで貴重なご意見をいただいたものを下記にまとめました。また、そのご意見に対して県士会より回答をさせていただいています。

日 程： (1) 令和4年9月29日 (木) 19:30～21:00 参加者数：28名
(2) 令和4年10月5日 (水) 19:30～21:00 参加者数：17名
形 式：オンライン (Zoomを活用したリアルタイム配信)

【検討議題1】

香川県作業療法士会として行っていくとよいと思うこと。(士会からの回答⇒)

(1) 会費等の支払方法に関して、口座引き落とし、キャッシュレス決済 (PayPay等) にて払いやすくする。会員になったことでの特典があればより興味を持ってもらえるのではないか。

⇒ありがとうございます。協会の「協会員=士会員」が実施されることになれば、変更して数年で変更になる可能性もありますので、会員の皆様に混乱を招かないようにしていくことが大事だと思っています。

(2) 各部会の活動が見えにくく、ホームページなど更新回数を増やしてはどうか、入会手続きを動画で見れるようになれば、理解しやすくなるのではないかと。また、SNSではLINE、Instagram、Twitterなど非会員も見れるものを活用する。

⇒ありがとうございます。SNSの活用は今後も進めていきたいと思っています。有意義なお意見ありがとうございます。

(3) 現在の広報誌 (紙ベース) はアナログだが、ベテランも新人も良く見ているので、無くすことはデメリットが大きい。広報誌を非会員がいるようなところへ設置 (郵送等) できればよい。OTはどういった活動をしているのかを一般の方々に広報する。

⇒広報誌のご意見ありがとうございます。非会員がいる所への郵送に関しては、まず、非会員の方が何処にいるのか、何人いるのかの情報がありません。会員と非会員がいる施設等であれば、情報提供をしていただきたいと思います。

(4) オンライン及びハイブリット研修会の継続をして、参加しやすい環境づくりを行う。

⇒まだ、COVID19の影響が強く、オンラインは継続していく可能性が高いです。オンラインや対面、ハイブリットをうまく活用していきたいと思います。

(5) 入会者（新人）に対してレクリエーションを行い、家族連れでも楽しめる企画を実施する。また育児などで活動に参加しにくい方のサポートが必要である。各部会や理事、新人との交流の機会を持つ。

⇒COVID19の影響が強く以前行っていたような新人や異動者との周知会は出来ていないので、感染状況を鑑みて再開していければと思います。

(6) 養成校の在学中から周知会の実施や仮の入会書類等を準備する。卒業後も入会が進んでいるかのフォローを行う。

⇒県内2校ありますが、どちらの養成校でも在学中に説明会や入会書類は説明して渡しています。養成校からも卒後の入会の声掛けを行い、県士会、臨床施設からも声掛けしていくことが必要と考えています。

【検討議題2】

施設側、個人が行っていくとよいと思うこと。

(1) リハビリテーション科の責任者から、入会をする声かけをして頂く。また、上司から新人へ入会するようになれば強制的な雰囲気もあれば、先輩から声かけ、また部に入会しているようであれば、一緒に活動するように促す。施設内で士会に入りやすいシステムを構築できれば良い。

(2) 施設側から会費の補助や実習生を受けた時の実習謝礼金などを新人入職員の県士会入会金に充てることができれば。

(3) 施設内の会員で生涯教育制度を受講している方から、新人教育の研修など改めて紹介、伝えてみる。

(4) 施設でも県士会活動を評価してもらえるようにできれば、また臨床実習に来た学生へ卒業後に入会をして活動する声かけを行う。

【香川県作業療法士会からのお願い】

今回も参加者の皆様に多くのご意見をいただきましたが、一度、士会の方で確認をさせて頂き、一部紹介させていただきました。作業療法士の社会的な需要は高まりつつありますが、人材を育成していくことも、本土会の役割と考えております。「県士会活動の円滑化」「組織率向上」を図ることが、皆様の後押しとなり、作業療法分野のさらなる認知度拡大に繋がると考えております。引き続き、ご意見、ご協力をよろしくお願いいたします。

コロナ禍における作業療法

医療法人社団 中和会 西紋病院 社会復帰事業部 吉川 敦

当院は、令和4年7月下旬にクラスター感染となり、その対応下での作業療法業務を経験いたしました。コロナ禍における対応におきましては、特に目新しい取り組みはありませんが、当時の当院の状況と課題を報告させていただきます。

当院でも、コロナ感染状況を踏まえた病院各部署のフェーズ分類化したコロナ対応をしておりましたが、令和4年7月コロナ院内感染を機にクラスター化し、さらなる感染を予防するため制限のある作業療法活動状況となっていきました。

当院の方針として外来機能は維持し続けることとなり、作業療法においては、午前中は外来対象者のみが集う活動展開のため、クラスター発生後も引き続き業務を続けることとなりました。その際は、参加者に対して院内コロナ発生状況の情報公開をし、見えない不安を軽減するよう配慮し、数名感染予防で利用を控えられましたが、大半の方はそのままの利用を続けられ、ほぼ従来通りの参加率を保つこととなりました。開始前及び終了時の除菌作業、来院・終了時消毒の案内とマスク着用、来院時の熱測定及び問診票確認、窓がない面談室の利用禁止、地域への訪問活動停止、職員の頻回な手指消毒など、当院でも他院同様の取り組みであったと思います。また散発的に発生する職員やその家族におけるコロナ発生時の対応として、警戒期間中はN95マスクを常用し作業にあたるなど感染予防に努めております（デイケア業務も同様です）

午後は入院対象者の作業療法を実施しており、コロナ感染当該病棟以外では、参加者間隔を拡げ、道具の共有や発声が伴う活動を行わず、軽運動やストレッチなどを中心とした活動内容を病棟で行うのみの活動が続きました。限られた業務展開のため午後の時間帯は業務の質・量とも低下し、その間は作業療法室や書類の準備・整理等をしてきましたが、コロナ対応長期化による高齢者の身体機能面の低下や病棟内に漂う閉塞感への取り組みに何ら手を出すことができないジレンマがありました。

夕方における入院対象者の面談や就業者等外来対象者へのフォロワー面談は、外来機能を維持し続ける当院方針もあり、除菌・換気を徹底し維持されました。

当院の場合、当該病棟内にて感染拡大を抑えること及び外来機能は維持することを徹底し、各病棟間及び外来部門との職員接触さえ避ける取り組みのなか、外来から各病棟まで業務展開し、集団運営が多いOT職員は、リスク管理にかなり気を遣っていました。そのようななか、作業療法単体では、なるべく業務を果たすべく工夫をしながら取り組んでいきましたが、当該病棟勤務職員の疲弊化が顕著に見られていくなか、対照的に徐々に時間をもてあまし気味となる自部署との比較に一病院職員としての忸怩たる想いはありました。感染予防しつつ当該病棟業務軽減化を図る業務分担などクラスター感染時における病院内共助の構築が当面の課題となっております。

No.27

病院紹介

アーチ訪問看護



私たちアーチ訪問看護は丸亀市にあり2015年8月より訪問を開始し7年が経過しています。

訪問看護での専門職によるリハビリテーションについてはニーズも高く利用者様は20歳～100歳までと幅広く現在90名を超える方にご利用いただいております。丸亀市を中心に坂出市、綾歌郡、仲多度郡、三豊市と広域をカバーしております。

看護師はもちろん理学療法士・作業療法士合わせて11名のスタッフが日々訪問に回っています。その中で作業療法士は私を含め4名います。

業務は医療保険・介護保険での訪問看護とリハビリはもちろん、地域活動にて認知症カフェ（2ヵ所）を丸亀市より委託をうけ運営しております。

当事業所の大きな特徴は何と云っても島嶼部への訪問看護を積極的に展開しているところです。丸亀市の塩飽諸島に位置している広島への訪問を、2019年の4月に開始し、その後、本島、三豊市の粟島へも訪問を行っています。また2021年6月より広島で認知症カフェを月1回実施しています。

いずれの島も過疎化と高齢化がすすんでおり支援を必要とする高齢者は多いものの、1人で生活が出来ないと島で暮らせないと云った環境のもとに必死で生活をしている方が多くいます。



島生活をしてきた皆さんの希望は『死ぬまで島で生活がしたい。島の井家で死にたい。』です。この想いを叶えたいと考える反面、本土と違い移動手段が船しかない離島で緊急時対応も難しくサービスも枯渇している環境の中、本土であればまだまだ家で生活できる方でも早々に施設入所してしまう現状もあり在宅支援の難しさを感じることがあります。

現場サイドとしてニーズが高いなあと感じる訪問看護におけるリハビリテーションですが、厳格化の方向で話しがすすんでおり矛盾を感じることも多くあります。

ただ、訪問を楽しみに待ってくれてる利用者様がいますので私は今日も船に乗って島へ行きます。

New!

リレーエッセイ14

松原 賢固
(榎村病院)西木 学
(ライトハートいきいき荘)尾川 由佳
(通所リハビリテーションおさか)

今年度10月から通所リハビリテーションおさかは卒業型の通所リハとして取組を行っています。退院後利用される方、加齢や、活動性の低下によって体力が落ちたため利用される方など様々です。利用者さんの中には「退院する時に運動を覚えてもらったけど、紙がどこにいったかわからん」「ここに来るけん家では動かん」と言われる方もいました。通所リハで、運動量を維持することや交流の場として利用することも大切です。しかし、在宅生活を継続する、身体状況を維持していくためには、自宅での活動や自主トレーニングの定着は欠かせません。利用者さんと前向きな自主管理の意識やより在宅生活を意識したりハビリの提供が行えると思っています。私自身、コロナによって活動が制限されてお腹がたるみ…、マスクや年齢で顔がたるみ…、私も目標を決めて自宅でできる運動を探索・継続して、若さ・ハリを保つことを目標に今の自分から卒業していきます!!



リハビリの歴史

高松協同病院 森本 義博



私は高松平和病院に2001年4月に入職しました。その頃は理学療法士8名、作業療法士4名いましたが、言語聴覚士はおらず、作業療法士が嚥食に関わり、嚥下面の評価も行っていました。入職した年に嚥下について勉強会に九州に行ったことを覚えています。食事以外では、リウマチの評価や自助具作成が中心であり、作業療法士として何を重点的に取り組んでいくべきか悩んだ時期でもありました。

その後、同一法人内で高松協同病院が開設され異動となり、回復期病棟に配属されました。回復期病棟では、ADLに積極的に介入できるため、作業療法士としてはやりがいのある部門となります。ADLに介入するために早出・遅出を開始したり、訓練時間を入浴や食事時間に合わせたりと工夫をしていきました。しかし、早出・遅出に対して意味を感じられないセラピストもおり、説明を丁寧にして理解を深めていくことの重要性を学びました。また、365日リハが開始されたときに、日・祝出勤をどのように割り振っていくか、勤務を組む立場になっていた為に気遣いが多かったことを覚えています。

今も変わらず、高松協同病院の回復期病棟に勤めています。20年間の作業療法で学んだことはたくさんありますが、一番に思うことは作業療法は楽しい。立場が変わると教育や管理の仕事が増えますが、これからも作業療法を楽しみたいと思います。



新入会員紹介

今年度も多くの方が県士会に入会されました。
これからよろしくお願ひします。

(順不同・敬称略)

①生年月日・血液型 ②出身地 ③出身校 ④勤務先 ⑤趣味・特技 ⑥職歴 ⑦自己アピール ⑧抱負



森田 愛々花
 ①平成12年2月15日・B型 ②高知県
 ③高知リハビリテーション学院
 ④橋本病院 ⑤音楽鑑賞
 ⑦元氣
 ⑧一生懸命頑張ります



田中 琳良
 ①平成13年3月16日・AB型 ②愛媛県
 ③専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ
 ④三豊総合病院 ⑤韓ドラをみること
 ⑦笑顔が素敵だとされます
 ⑧わからないことも多くありますが、患者様
 1人1人と向き合っていきたいと思ひます。



古志 嶺奈
 ①平成12年7月8日・B型 ②香川県
 ③徳島医療福祉専門学校
 ④橋本病院 ⑤映画・ドラマ鑑賞、ダンス
 ⑦常に大きい声で笑ってます。
 ⑧持ち前の笑顔で患者様に寄り添い、
 信頼されるよう精一杯頑張ります。



本川 亜美
 ①平成11年3月16日・B型 ②香川県
 ③高知リハビリテーション学院
 ④三豊総合病院 ⑤ゲームが好きです。アクションゲームを中心に
 遊んでいますが、操作は苦手です。繰り返し遊ぶことで少しずつ上手なっている
 気がしています。
 ⑦細かい作業が好きなので、単純作業に苦なく取り組みます。
 ⑧脳の構造や役割を詳細に理解する。



辺見 佳壽子
 ①昭和55年10月22日・O型 ②香川県
 ③四国医療専門学校 ④高松刑務所
 ⑤ゴルフ、釣り ⑥県内外精神科病院、訪問看護
 ⑦負けん気は人一倍強く、我も強い！但し、協調性は大事にしています。
 ⑧全国でも、まだ従事している人が少ない、矯正施設での作業療法士です。
 今まで経験した事のない、非日常の毎日ですが、少しずつ慣れ始めてきた
 ので、そろそろ本領発揮していきます。



田片 孝祈
 ①平成10年11月11日・B型 ②香川県
 ③四国中央医療福祉総合学院
 ④松井病院 ⑤ドライブ
 ⑦メンタルが強い。
 ⑧作業療法士としてスキルアップしていき、患者様・
 家族様に満足していただける作業療法士を目指す。



篠原 裕貴
 ①平成11年8月31日・A型 ②香川県
 ③四国中央医療福祉総合学院
 ④四国こどもとおとなの医療センター
 ⑧患者様に笑顔になっていただけるよう、
 日々勉強を重ねて頑張ります。



吉岡 麻優
 ①平成11年2月3日・O型 ②愛媛県
 ③徳島医療福祉専門学校
 ④松井病院 ⑤料理をつくること。
 ⑦負けず嫌いのため、ものごとくにねばり強
 く取り組みます。
 ⑧何事にも一生懸命に取り組んで行きます。



森高 颯太
 ①平成11年11月20日・A型 ②香川県
 ③四国医療専門学校
 ④しおかぜ病院 ⑤趣味 プラモデル作り、
 読書 特技 空手・弓道 初段
 ⑦手先が器用だとよく言われる。
 ⑧新しい知識を積極的に取り込めるOTを目指す。



浦山 策聖
 ①平成11年10月29日・O型 ②香川県
 ③四国医療専門学校
 ④医療法人ブルースカイ松井病院
 ⑤古着・うどん店巡り・サッカー観戦・
 和太鼓・篠笛・詩吟
 ⑧経験を積み重ねても「日々初心」を心得
 とし、頑張ります！



山本 健太郎
 ①平成3年1月24日・O型 ②香川県
 ③吉備国際大学
 ④屋島総合病院 ⑤マラソン、水泳、
 トレイルランニング、足つぼマッサージ
 ⑥小倉リハビリテーション病院
 ⑧生まれ育った香川で働けることに喜びを感じ
 ています。常に謙虚さを忘れず頑張ります。



川上 真依
 ①平成12年5月14日・A型 ②愛媛県
 ③四国中央医療福祉総合学院
 ④松井病院 ⑤映画鑑賞
 ⑦元氣です。
 ⑧頑張ります。

事務局からのお願い

昨年度と今年度は、COVID-19の感染拡大の影響により士会の活動や運営に影響が出ておりましたが、オンライン及びハイブリッド形式にて研修会等を実施しております。また本会では、各部局・委員会にて各種事業・活動に取り組んでおります。各種事業・活動は、作業療法の啓発や会員の学術・技能向上などを目的に実施されるもので、主に会員の年会費によってまかなわれております。つきましては、各事業・活動が滞りなく実施できますよう、会費の納入がまだ済まされていない方は、速やかに納入をお願いいたします。

●会費納入のお願い（今年度会費未納の方へ） 令和4年度会費が未納の皆様へ

今年度の会費納入がまだの方は、下記へ2022年度会費8,000円をお振込みにて納入をお願いいたします。

〈振込み先〉

百十四銀行 県庁支店 普通銀行 口座番号 0993345

加入者名 一般社団法人 香川県作業療法士会 会長 松本嘉次郎

※納入状況がご不明な場合は、事務局へお問い合わせください。

●退会・休会・異動届に関するお願い（各種届出は忘れずに!!）

退会・休会（1年更新）・異動される場合は必ず連絡をお願いいたします。退会・休会・異動される方は、各自が責任を持って、必ず事務局へ各種届を提出して下さい（届け出書類はFAX不可です）。

●県外へ異動される方へ

県外（他県士会）への異動は自動的に退会（香川県OT士会）とはなりません。わすれずに必ず事務局へご一報ください。

《お問い合わせ先》

（一社）香川県作業療法士会事務局

〒769-0205

香川県綾歌郡宇多津町浜五番丁62-1

四国医療専門学校 作業療学科内

TEL：(0877)41-2330

担当：山川 青木 磯谷



入会

- 細谷 光希 (大杉脳神経外科医院)
谷本 人士 (橋本病院)
植松 紗弥 (大杉脳神経外科病院)
藤井 真衣 (高松協同病院)
高橋 香音 (かがわ総合リハビリテーションセンター)

退会

- 松井佳代子 (プライマリケア訪問看護ステーション)
安西 慈 (独立行政法人 地域医療機能推進機構 りつりん病院)
川原 優希 (かがわ総合リハビリテーション事業団)
津馬紗矢果 (三豊市立西香川病院)
大山 成子 (阪本病院)
鎌野 輝 (吉田病院)

異動

- 中野 直樹 (おさか脳神経外科)
▶訪問看護ステーション ケアライン
向井 知里 (四国こどもとおとなの医療センター)
▶自宅
中村 昌子 (きずかな・こどもの発達支援教室プレイジャパン合同会社)
▶自宅
三好 悠介 (おさか脳神経外科)
▶自宅
菅原 雅美 (老人保健施設虹の里)
▶高松平和病院
田中 幸子 (三宅リハビリテーション病院)
▶介護老人保険施設まゆみの里



■ (一社)香川県作業療法士会ニュース No.85■

編集長 木村勇介 (滝宮総合病院)

編集委員 細谷かぐや (吉峰病院) 塩田未紅・安藤瑞基・大林美紀・田片孝祈 (松井病院) 村上太気 (いわき病院)
宇佐川雄太 (まるがめ医療センター)